

## 令和4年度地域包括支援センター事業中間評価（令和4年11月末時点）

## 印旛地域包括支援センター

事業ごとの評価	
総合相談支援業務	1315件の相談があり、介護保険制度・サービスに関する事、医療・保健に関する事、家族間の問題についての相談が多かった。中でも、病院から退院支援に関する相談が増え、特にガン末期の方の緊急的な相談や内容が複雑・複合化してきているので苦慮する事があった。
権利擁護業務	成年後見制度の相談に関しては、申し立てから申請までの窓口での説明をし、社会福祉協議会の相談会に繋げるなどスムーズな対応を心掛けてきた。 又身寄りのない独居高齢者で成年後見制度の申し立てが必要と思われる対象者についてはワークライフサポートとも連携し、本人の判断能力や資力を確認しながら実態把握に努め、高齢者福祉課の助言も受けながら対応した。また、住環境や経済的に困窮している高齢者も増加傾向にあり、緊急を要する場合は早急に高齢者福祉課へ相談し、養護老人ホームへの措置入所が必要と判断された場合は市と連携して役割分担しながら早期対応をした。その他、民生委員・地域住民・介護支援専門員・各サービス事業所とも連携を図り課題が挙がった際に個別ケア会議を開催し今後の対応について協議した。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	ケアマネジャーからの相談として、家族間の調整・サービス提供に関するもの、複合化する課題を抱えたケースが多く、何度も同行訪問・助言により総合調整や後方支援をしている。
地域ケア会議推進事業	個別会議3回、推進会議1回を行った。ゴミ屋敷や、独居で認知症を患う高齢者世帯の在宅生活の限界点、次なる日常生活の支援方法・地域住民が出来る事、見守り等の意見を聞き取り課題解決に取り組んだ。
在宅医療・介護連携推進事業	在宅医療・介護連携認知症対策推進会議に出席して市の事業計画を共有した。
認知症施策推進事業	認知症カフェを5回計画し、5回実施した。その都度、感染症対策を講じながら行い、個別相談にも対応した。

生活支援体制整備事業	戸外で行うカフェ（あおぞらカフェ）を3回、にっこりカフェを3回開催した。JA食料品の移動販売の普及啓発をカフェや特養デイサービスにてドッキングする事を試みた。介護予防の出前講座をクイズや体操等を取り入れて行った。
令和4年度事業中間評価（総括）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や問題が複合化してきているケースに対して、多職種・他機関と連携・協働して対応したケースが今年も更に増加していた。</li> <li>・複雑化しているケースに対しても、柔軟な対応・見立て・見極め・タイミングを重視しながら、包括内チームワークよくケースに当たる事が出来た。</li> <li>・コロナ禍ではあったが、感染症対策を講じながら、高齢者の引きこもりの防止や、フレイル予防に力を入れ、各地域に出向いて出前講座を行った。</li> <li>・昨年同様、印旛包括の重点目標として、印旛地域の住民の皆様に、今地域で起きている事、今後起きるであろうことを知って頂き「地域に関心を持つ」「気にかける」気持ちを育てて行ってもらいたいと思っている。助け合い活動は、助けを必要とする人がいることを知る事で広がっていくために、地域の人が気づき、関心を持てるよう活動をしていく。そして、互助活動は我がごとであり、自身の元気にもつながっている事を地域に広めていきたいと思う。</li> </ul>	